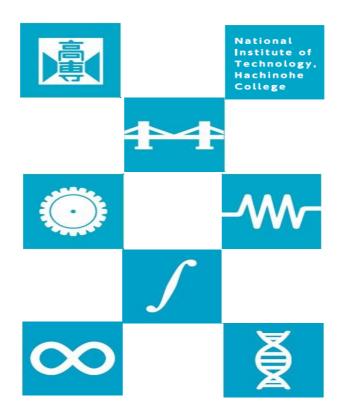
相談室報

(第 36 号)



令和2年3月

八戸工業高等専門学校

目次

1.	講	演会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
	1-1	自己理解のススメーそのメリット-	相談室カウンセラー 土屋 文彦
2.	相言	炎室活動報告 ・・・・・・・・・・・	• • • • • • • • • • • • • • • • 5
	2-1 2-2	構成的グループエンカウンターについて 「話してみよう!1 分間」について	室長 矢口 淳一副室長 齊藤 貴之
3.	研	修会等参加報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
之	_	O 報告資料】 相談室 FD H30 年度 研修等の参加報告	副室長 齊藤 貴
	3-2	スクールソーシャルワーカーは、どんなことがで	きるの スクールソーシャルワーカー 正部家 千穂子
	3-2	人として必要とされる資質を育むために 〜生活チ	・エックシート&研修会から〜 課外活動指導員(総括相談員) 松井 康博
4.	相	談室の記録・・・・・・・・・・	16
	4-2	年間活動記録 相談室購入書籍・雑誌 カウンセラーへの相談人数	

編集後記

1. 講演会報告

1-1 自己理解のススメ

ーそのメリットー

相談室カウンセラー

臨床心理士 土屋文彦



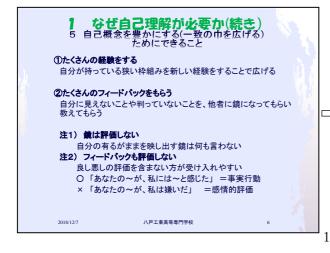
本日お伝えしたいこと

- ◆自己理解とは・・・・
- ◆ その方法とメリット
- + 自己理解を進める際の留意
- + エゴグラムの基本的理解と活用法

2018/12/7 八戸工業高等専門学校







自己概念を豊かにするために考えておきたいこと 1 他者とかかわる(つきあう)とは

- 1 「つきあう」とは、『(角を)突き合う』こと 角 = 枠組み = 自己概念
- 2 枠組みの特徴

①マイナス面 コミュニケーションを妨げる ②枠組みの同質性が持つ問題 皆が持っている「枠組み」が同じであることを目指すのでない。

- 3 違っているから、人は成長できる
- お互いが異なっていることを前提としたコミュニケー ションが大切。

八戸工業高等専門学校

自己概念を豊かにするために考えておきたいこと 3 感情との付き合い方

- 1 「感情をあらわす」ことと「感情的になる」ことは違う ・ 感情の表わし方は、①行動で表現 ②生理的な表現 ③言語的な表 現がある。
- 現 がある。 自分の感情に気づくことは難しいが、相手の感情には出されている サインにより判りやすい。 「感情的になる」一感情を爆発させる ことと「感情をあらわす」=自 分の中に起こっている感情がどのようなもので、誰に対し、なぜ起 こっているのか自覚できている ことは異なる。
- 2 感情との付き合い方

 ◆ 感情は良くないものと決め付けない。
- 思考と異なり、ストレートなもので、時に心や身体の異変を知らせる サインでもある。
- できるかぎり、自分の心の中で起こっている感情に眼をむけ、素直に 受けとめる。
- 相手に対し、言葉と表情などで、しっかりと自分の感情を伝え、それを契機に、より深いコミュニケーションを図っていくことが大切。

2018/12/7

八戸工業高等専門学校

エゴグラムを作成してみよう

①配入の仕方

1~53の質問項目について、自分に当てはまるかどうかにより、「は い」「いいえ」「どちらでもない」のうちのどれかを選択し、該当する口に、〇印で答えを記入する。

②結果の整理の仕方

すべての質問項目に答えた後、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の 回答を、それぞれ、「2点」「0点」「1点」として数値化して、まず横軸に 従い該当欄に記入する。

その後、「CP」「NP」「A」「FC」「AC」「L」の各項目ごとに(縦軸での)合計点を「得点」欄に記入する。

③プロフィール作成の仕方

②の「得点」欄に記入した数値を、「TEG]エゴグラム・プロフィール」において、棒グラフとして作成する。

八戸工業高等専門学校

5つの自我状態の肯定的要素と否定的要素

自我エネルギーが過少な状態	本来の働きをしている状態	自我エネルギーが過剰な状態
価値づけができない	CP 価値づける	価値を押し付ける
自分から責任を取らないルーズでだらしない	・規則やルールを順守する ・善悪感、正義感を持つ	・決めつけやこだわりが強い・甘えを許さない(威圧する)
思いやりができない	NP 思いやりがある	思いやりが過剰
・冷淡な態度をとる ・周囲への関心が低く、相手への配 慮に欠ける	・傾聴し共感する ・相手を信頼し、励ましたり勇気づ ける	・世話を焼きすぎる ・相手に過剰に期待する
思考しない	A 思考する	機械的に考える
・周囲の状況に無頓着で現実認識に 欠ける ・場当たり的に判断する	・現実を確かめたり、事実に基づい で判断する ・公正な評価をくだす	・頭でっかちで実が伴わない ・相手の話を打算的に考える
楽しめない	FC ありのまま	わがまま
・感じたままを表現しない ・萎縮して行動しない	・のびのびと明るい ・興味、関心があり創造性が豊か	・いい加減 ・自己中心的で度をこした横柄な態 度を取る
合わせない	AC 合わせる・協調できる	自分を抑える
・意地を通したりで非協調的・頑固でてこでも動かない	・相手と協力をし、協調的 ・相手の指示を素直に受け入れる	・依存心が強くすぐに妥協する・我慢の反動が出たり恨みがましい

自己概念を豊かにするために考えておきたいこと 2 他者とかかわる (好き嫌い) とは

- 1 好き、嫌い = 価値観 = ものの見方、考え方や判断の基準となるもの = "ものさし"
- 2 価値観はひとそれぞれ
- 価値観はその人それぞれで異なり、影(ぶつかり合い)と光(人間関係づくりの出発点)をもっている。
- 3 価値観は作られるもの
- ◆ その人がかかわった集団や人間関係の中で作られる。
- 4 価値観は変えることができ、違いを乗り越えることができ
- 「表面的な意見でやりとりするレベル」と「お互いの価値 観を理解し合うレベル」がある。

 \Rightarrow

 \Rightarrow

 \Rightarrow

八戸工業高等専門学校

改めて、エゴグラムを使って自己概念を理解する

- 1 エゴグラムとは?
- 自分の考えや感情、行動の元になる心の状態を、5つの機能に分けてグラブ化したもの

- 自分の心の癖や、今ここでのやりとりの傾向を知ることで、気まずくなったりする状況から抜け出したり心地よい人間関係を作り出す材料にできる。

- 1 状況のすべてを見れない。2 状況をあるがままに見れない。3 何をどのように見るかは、認識のあり方にかかっている

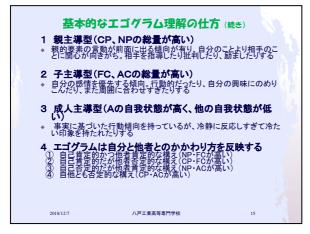
八戸工業高等専門学校

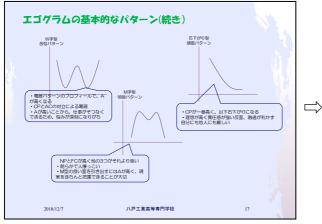
自我状態の構造とその機能 支配的な親Controlling Parent : 物事を判断するための基礎となる概念、考え方、理想を身に着けた部分 ・ 肯定的な面:責任感、正義感 養育的な親 <u>Nurturing Parent</u>: 持ち方や示し方を身に着けた部分 CP NP 保護的 世話をする ⇒肯定的な面: 世話好き、思いやり⇒否定的な面: 過保護、過干渉 成人Adult: "今ここで"何をしたら良いか、効果的な対処はなにか等を考えるコンピューターの様な部分 ■肯定的な面:分析的、合理的■否定的な面:打算的、機械的 自由で明るい あけっぴろげ 天真爛漫で無邪気 エネルギーがある 自由な子どもEree Child : 生まれたままの状態を 残し、強化した部分。人が本来持っている部分 AC FC ■肯定的な面:行動的、創造的■否定的な面:衝動的、自己中心 順応した子どもAdapted Child : 人に対し従ったり 反抗するような形で行動する部分 じっと我慢とじこもる ➡肯定的な面:素直、気配り ➡否定的な面:依存的、反抗的

基本的なエゴグラム理解の仕方

- 1 1番高い自我状態に着目し、その肯定的又は否定的特徴をつかし
- ① 緊張などをキャッチし、その自我状態の特徴的な行動や思考、感情で対 がしかち
- ② 他人との関係の持ち方に反映しがち ③ 意思決定に反映しがち ④ 自己変革や成長に抵抗しがち
- 2 1番低い自我状態に着目し、その肯定的又は否定的特徴をつかし
- ① その自我状態の特徴的な行動や思考、感情での対応ができない ② 他人との関係の持ち方や意思決定に反映できない
- 3 例がどの位置にあるかを見る
- ① (Aが低い位置にありまた肯定的な機能が働かないと、他の高すぎる自 我状態の機能をコントロールできずらい
- 4 全体のバランスを考え、そのように改善したらよいか考える① 低い自我状態の機能をあげることが基本

八戸工業高等専門学校





ゴグラム活用の基本 エゴグラムは変化する(させることができる) ☆ (Aの働きを上手に使う • 低いエネルギー状況の自我状態を引き上げ、プロフィール全体のバランスをとる ⇒CPを高めるためには 自分の考え、意見を明確にする 人の意見に反論を試みる、まとめる等 ⇒NPを高めるためには: 1日3人以上の人の優れたところ見つけほめる 世話役をかって出る等 ⇒Aを高めるためには : 1日の計画を立て実行する 課題に行き詰っても原因や状況を冷静に判断 する等 ⇒FCを高めるためには : 大勢の仲間に加わり冗談や楽しい話題を持ちかける 自分が好きなスポー ツなどの話を持ちかける等 ⇒ACを高めるためには : 相手の気持ちを優先する 自分から挨拶をし一言添える等

最後に (交流分析の哲学)

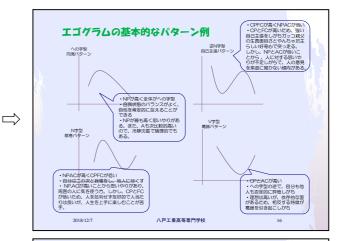
- 人は誰でもOKである
- ⇒ 人は誰でも価値が有り、重要で尊敬される存在

2 人は誰もが考える能力を持っている

⇒ その人自身が自分の人生に何を望むかを決める責任が有り、誰でも自分が決めたように生きていくことができ

3 自分の運命は自分自身が決め、そしてその決定を変えることができる

八戸工業高等専門学校



ゴグラム活用の基本 エゴグラムは変化する(させることができる) ☆ ②の働きを上手に使う

• 低いエネルギー状況の自我状態を引き上げ、プロフィール全体のバランスをとる

⇒CPを高めるためには:

自分の考え、意見を明確にする「~すべきです」人の意見に反論を試みる・まとめる 現状に満足していいか自分に問いかける等

⇒NPを高めるためには : 1日3人以上の人の優れたところ見つけほめる「それがあなたの良いところです」 にっこり微笑む・世話役をかって出る等

⇒Aを高めるためには : 課題に行き詰っても原因や状況を冷静に判断する「もう少し詳しく説明してく なさい」 同じ状況での他の人の行動を考える・1日の計画を立て実行する

⇒FCを高めるためには 大勢の仲間に加わり冗談や楽しい話題を持ちかける「わー すごい!」 芸術や娯楽を楽しむ・小さい子と遊ぶ・冗談を言う等

⇒ACを高めるためには : 相手の気持ちを優先する「大丈夫ですか?」他の人の言葉を遮らない・愛t がどう考えたかぎいてみる等

ゴグラム活用の基本 エゴグラムは変化する(させることができる) (株舎)

▲ 過剰な機能はAを働かせて見直す

自分の意見を押しつけ過ぎないよう相手の意見を聞いてから対応す る

⇒高いNPを見直すには : 世話やきしすぎず、相手を信頼して任せる

⇒高いAを見直すには : 理屈でやりこめるのではなく、相手の意見をきいて冷静に判断する

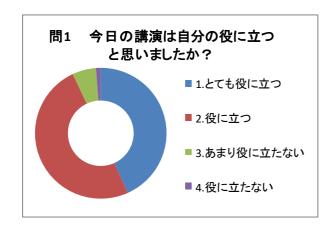
⇒高いFCを見直すには: 自己中心的にならず、周囲と一緒に過ごす

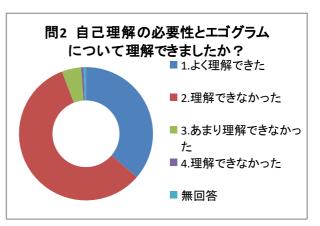
⇒高いACを見直すには : 信頼できる人の意見を参考に自分で判断する

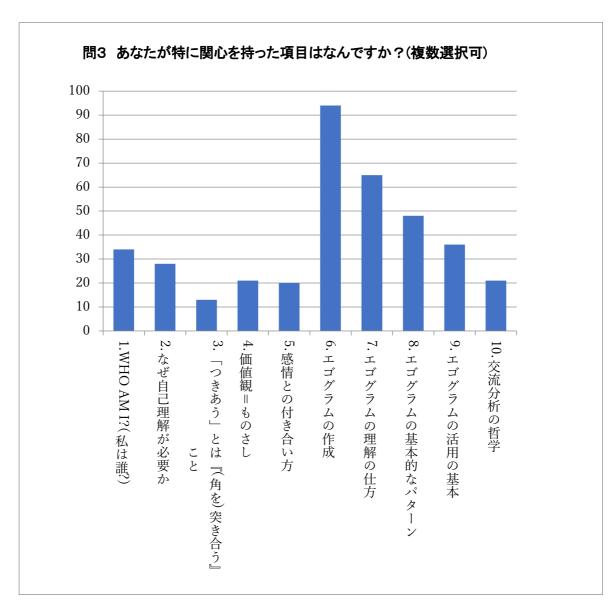
八戸工業高等専門学校

 \Rightarrow

◎ アンケート調査結果







2. 相談室活動報告

2-1 構成的グループエンカウンターについて

室長 矢 口 淳 一

平成30年度の構成的グループエンカウンターは、以下のようにクラス別に4月24日(火)と5月1日(火)の特活の時間に、記念ホールと第一体育館で実施された。

4/24(火) L1 (記念ホール)

L3 (第1体育館)

5/1 (火) L2 (記念ホール)

L4 (第1体育館)

これは、集団学習体験を通じて、リレーションづくりと自己発見による行動の変容と人間的な自己成長を狙ったものである。

全体の流れは次の通りである。

≪進め方≫

- 0. 集合
- 1. 始めのあいさつ
- 2. 目的と実施の注意点の説明
- 3. エクササイズ

(後述の「エクササイズの流れ」参照)

- 4. 学年全体シェアリング(各クラス、担任と学生2名に感想)
- 5. 終わりのあいさつ
- 6. アンケート記入 解散

≪エクササイズの流れ≫

- ① 「担任を知るYES・NOクイズ」(7分間) 【ねらい】まず担任の先生について紹介し、担任と学生の二者関係をつくる
- ② 「担任とアウチ」(7分間)

【ねらい】・担任と学生の二者関係を深める

・人さし指と人さし指のスキンシッシップを通 じて親和的な出会いをつくる。 ③ ジャンケン列車(5分間)

【ねらい】全員で動くことで、クラスの一体感 を強める。

④ バースデーチェーン (7分間)

【ねらい】非言語コミュニケーションによりコミュニケーションを図る。

⑤ 質問じゃんけん (3分間)

【ねらい】友達の話を聞き、自分のことを話す ことで、友達同士が肯定的に認めあう雰囲気づ くりをして交流を促進する

⑥ 共通点探し(8分間)

【ねらい】二者関係から四者関係へと関係性を 広げる。

⑦「こんなクラスにしたい」「居心地のいい教 室とは」(10分間)

【ねらい】クラスの帰属意識を持たせ、共通の 認識を持たせる。

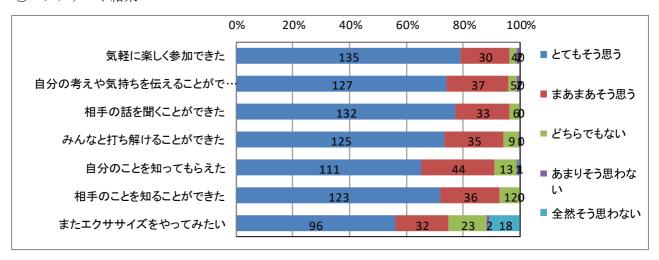
ふりかえりのアンケートの結果を次ページの図に示した。クラス毎に実施したせいか、「またエクササイズをやってみたい」が70%程度である他はすべて90%以上で、例年になく非常に肯定的であった。「自分のことを知ってもらえた」かどうかについては、いつも肯定的意見が低い傾向にあるが、7割程度の学生がとてもよく知ってもらえたと回答した。

また、「こんなクラスにしたい」「居心地のいい教室とは」でグループ毎にまとめた結果を次ページの表に示した。『明るく元気のよい』、『笑顔や笑いのたえない』、『気兼ねなく気軽に話せる』クラスを挙げるグループが多かった。また

何度も席替えを望むグループも多かった。是非 実現してほしいものである。

今後も構成的グループエンカウンターの実施 や効果を上げるための検討が引き続き必要で ある。担任を始め関係各位の協力のもと実施で きたことを感謝申し上げたい。

◎ アンケート結果



◎「こんなクラスにしたい」「居心地のいい教室とは」のまとめ

※()内の数字はグループ数

- ・明るく元気がよい(10)・笑顔や笑いがたえない(10)・気兼ねなく気軽に話せる(9)
- ・席替えがたくさんある(9)・楽しい(7)・思いやりのある(6)・いじめがな
- い(5) ・まとまりのある(4) ・切り替えの早い(4) ・清潔感のあるクラス(3)
- ・あいさつが言える(2) ・共に助け合う(4) ・団結できる(3) ・勉強を教え合える クラス(3) ・居心地のいい(3) ・いつまでも初心を忘れないクラス(2)
- ・人の言うことを聞けるクラス (2)

2-2 「話してみよう!1分間」について

副室長 齊 藤 貴 之

平成30年度の「話してみよう!1分間」は、全1年生を対象に夏学期(7月)と冬学期(12月)に1回ずつ実施した。「話してみよう!1分間」は、例年、学生に相談室について知ってもらうことにより、学生が相談しやすい環境作りを目指して実施している。

学生には、事前にアンケート用紙を配付し、相談時の自分の状況等をテーマに、作文、願い事、学校満足度スケーリング等を各自記入してもらった。指定された時間に、相談員は、数分間程度学生が持参したプリントをもとに学生の話に耳を傾けた。相談員は無理に聞き出そうとせず、「傾聴・受容・共感的態度で接する」ことを心がけている。2回の実施概要を以下に示した。

◎実施概要

【1回目】

①目的

- 1) 学生に、相談室の場所や雰囲気、相談員の 人柄や担当曜日等を知ってもらうことにより、 相談室の敷居を下げ学生が相談しやすい環境 をつくる。
- 2) 学生の相談できる相手の選択肢を拡げる。 ②実施日:7月3日(火)~7月13日(金)
- ③対象人数:1年生174名

【2回目】

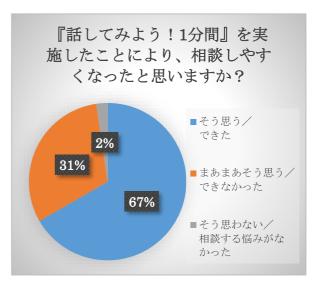
①目的

- 1) 学生の悩みをすくい上げ、安定した状態で新年度を迎える助力とする。
- 2) 学生の相談できる相手の選択肢を拡げる。②実施日:12月3日(月)~12月17日(月)③対象人数:1年生173名

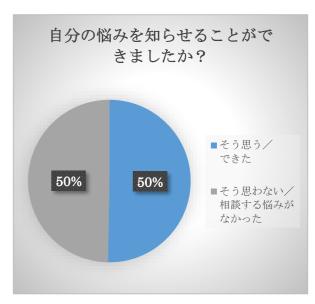
実施後に学生に記入してもらったアンケート 結果をまとめて示した。

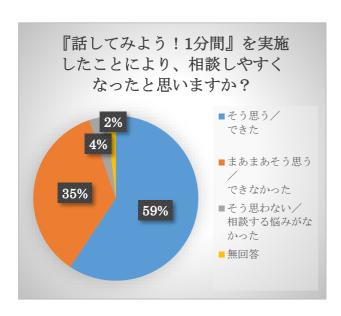
◎平成30年度アンケート結果

【1回目】(回収率 98.3% 171 人/174 人) 質問 1「『話してみよう!1分間』を実施したこ とにより、相談しやすくなったと思いますか?」

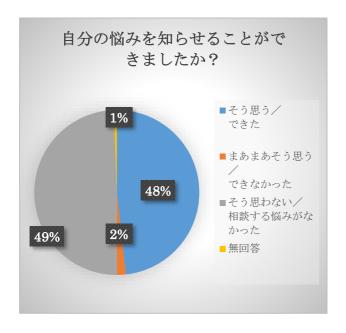


質問 2「自分の悩みを知らせることができましたか?」





質問 2「自分の悩みを知らせることができましたか?」



◎まとめ

実施後のアンケート結果をみると、質問1では、2回目の方が相談しやすくなった割合が減った。また、質問2でも、2回目の方が悩みを知らせることができた割合が減った。例年は、どちらも2回目の方が割合が増える傾向にあるが、今年度は違い傾向が現れているため、進級後も様子を見ていくことが必要である。一方、個々の感想からは概ね良い評価得られており、今後も本活動を継続していきたい。

3. 研修等参加報告

【平成 30 年度 FD 報告資料】

3-1 相談室 FD H30 年度 研修等の参加報告

副室長 齊藤 貴之

H30.4.17

相談室FD H30年度 研修等の参加報告

マテリアル・バイオ工学コース 齊藤 貴之

- ①日本学生支援機構 障害学生支援実務者 育成研修会 期間 H30.8.23~8.24 会場 東京国際交流館
- ②国立高等専門学校機構 全国国立高等専門学校 学生支援担当教職員研修 期間 H30.9.13~9.14 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ③日本学生相談学会 全国学生相談研修会 期間 H30.12.9~12.11 会場 東京国際フォーラム
- ・高等教育のユニバーサルデザイン(UD)化
- ・学生支援における「合理的配慮」と「建設的対話」

高等教育のユニバーサルデザイン(UD)化

共生時代の高等教育

10代·20代の学生 → 他にも 障害のある学生、社会人、高齢者、 留学生 など 多様な学生



多様な学生にとって、利用可能か? 使いやすいか? 参加しやすいか?

組織で個別に対応

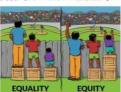
車いす移動 入り口の段差 → スロープをつける

留学生 日本語の避難サイン → 英語も併記

高等教育のユニバーサルデザイン(UD)化

教育活動のUD化

組織で個別に対応 → 組織で全体に対応 UD化により、個別対応が減る、公正(≠ 平等)に対応



平等 (配分の平等) 公正 (機会の平等)

http://interactioninstitute.org/illustrating-equality-vs-equity/

高等教育のユニバーサルデザイン(UD)化

教育活動のUD化

全ての学生が利用しやすい環境にする

資料 → 視覚障害がある・なしに関わらず、見やすくする

UDフォントを利用、ふりがな・英語を併記 カラー資料はモノクロ印刷で配色確認 (BIZ UDPゴシック) カラー資料はモノクロ印刷で配色確認 (MSPゴシック)

指示 → 直接的・具体的・視覚的な表現を使う

13時頃来ること → 13時に来ること 早めに提出 → ○月×日△時に提出 □頭で連絡 → メモ・図を渡して連絡

情報 → 誰でもアクセスしやすい情報ツールを使用

高等教育のユニバーサルデザイン(UD)化

教育活動のUD化

相互理解・相互支援ができる学生の育成

学生支援 = 施設のバリアフリー化

車いす移動 入り口の段差 → スロープをつける

留学生 日本語の避難サイン → 英語も併記



学生支援 = バリアフリー化 + 支援学生 車いす移動 段差 → スロープ + 支援学生

留学生 避難サイン → 英語 + 支援学生

学生支援における「合理的配慮」と「建設的対話」

「合理的配慮」の考え方 基本方針【政府】

·障害者差別解消法 (2016年4月 施行)

不当な差別的取扱い・合理的配慮の不提供 → 禁止

事業者の事務・事業の目的・内容・機能に照らし

- ① 必要とされる範囲で本来の業務に付随するもの
- ② 障害者でない者との比較において同等の機会の提供
- ③ 事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばない

社会的障壁の除去のための手段・方法

- ① 代替措置を含め双方の建設的対話による相互理解を通じて 必要かつ合理的な範囲で、柔軟な対応がなされるもの
- ② 技術の進展・社会情勢の変化等に応じて変わり得る

学生支援における「合理的配慮」と「建設的対話」

「合理的配慮」

本来の業務の中で、目的などの本質的な変更はせず多様な学生に同等の機会を提供する

特別扱い = 機会の平等 (≠ えこひいき)

教育の質は維持したまま。評価基準は変わらない

合理的配慮にあたらない例

実験スキルの獲得を目的とした授業(実験)で、 実技を免除し、代替手段を考慮せず合格とする

学生支援における「合理的配慮」と「建設的対話」

「建設的対話」

リスクを回避するため、相互理解・信頼関係を構築 し、互いに対して過度な期待の排除、組織で対応する

「建設的対話」は合意形成

できること・できないことを提示(完璧ではなく改善)

日々の交流で支援状況を確認



問題が大きくなる前に対応

\Rightarrow

学生支援における「合理的配慮」と「建設的対話」

支援の流れ

- ① 配慮願い
 - 本人(担任などの教員を通して)が申請 診断書は、あるのが望ましい
- ② 支援内容の調整 「建設的対話」により合意形成
- ③ 支援の実施 授業・寮など対象部署で実施
- ④ 支援の評価・更新(年度・学期) 支援状況の確認と改善

まとめ

支援の7原則

- 1. すべての学生に質の高い教育
- 2. 成績評価の基準は維持
- 3. 教職員の理解と協力
- 4. 学内の連携と学外資源の活用
- 5. 学生の自立と成長につながる支援
- 6. 完璧を期すより改善する姿勢
- 7. 学校の目的・個性にあう持続可能な支援

3-2 スクールソーシャルワーカーは、どんなことができるの

スクールソーシャルワーカー 正部家 千穂子

スクールソーシャルワーカーは、

どんなことができるの

平成30年 12月19日

スクールソーシャルワーカー 正部家 千種

SSW

スクールソーシャルワーカー

スクールソーシャルワーカー (SSW) について

平成20年 文部科学省 「スクールソーシャルワーカー活用事業」 がスタートした

スクールソーシャルワーカー (SSW) について

SSW配置の目的

- (1) 学校だけでは解決できにくい問題に、 「福祉の視点」を取り入れた支援
- (2) 学生や保護者の生活等に目を向け、その環境改善に向けた支援
- (3) 学校と関係機関とのつなぎ役 保護者等と関係機関とのつなぎ役



スクールソーシャルワーカー (SSW) について

SSWの職務内容

学生の最善の利益を第一に、 問題解決に向けた支援にあたります

スクールソーシャルワーカー (SSW) について

SSWの職務内容

- (1) 生活状況の課題を抱える学生が置かれた環境への働きかけ
- (2) 関係機関とのネットワーク構築、連携、調整
- (3) 学校内におけるチーム体制の構築、支援
- (4) 保護者、教職員等に対する支援・相談・ 情報提供



スクールソーシャルワーカー(SSW)について

スクールカウンセラーとの違い

- (1) スクールカウンセラー (SC)
 - ・学生本人の心の問題に注目
 - ・心理的な問題に起因する症状を心理 療法により改善するのを支援する

スクールソーシャルワーカー(SSW)について

スクールカウンセラーとの違い

- (2) スクールソーシャルワーカー (SSW)
 - 学生を取り巻く環境に注目
 - ・生活上の問題を様々な工夫により 解決するのを支援する
 - ・相談への対応の仕方や支援の方法が 幅広くなって、関係機関は多岐にわ たる



青森県における

SSW の 配置状況

平成30年度青森県におけるSSWの配置状況

青森県内に25名

東青教育事務所 3名 北斗高等学校 1名 西北教育事務所 3名 五所川原高等学校 1名 中南教育事務所 4名 尾上総合高等学校 1名 上北教育事務所 4名 三沢高等学校 1名 下北教育事務所 2名 田名部高等学校 1名 三八教育事務所 3名 八戸中央高等学校 1名

平成30年度青森県におけるSSWの配置状況

青森県内に25名

- (1) 小中学校 市町村教育委員会からの申請によって 教育事務所からSSW派遣
- (2) 高校 県立学校長からの申請によって 県立配置校からSSW派遣

SSW、私の活動



SSW、私の活動

顕在化していた問題

- ・学費の未納
- 学習困難
- ・下宿の家賃未納
- ・暴力行為
- ・不登校
- 非行
- 高校中退
- ・アルバイトによる登校への支障
- 十分な食事がとれていない

SSW、私の活動

問題の背景に存在した問題

- ・ひとり親による経済的困難
- ・家族の未就労による経済的困難
- ・家庭内暴力
- 虐待
- 発達障害
- ・10年以上関係機関がかかわる 養育機能が 低い家庭
- 保護者の精神疾患



SSW、私の活動

かかわりをもった関係機関

- ・児童相談所(18歳未満)、 保健所
- 児童養護施設・児童自立支援施設・教育機関
- ・地域包括支援センター
- ・生活福祉課、子ども家庭課
- 社会福祉協議会、病院、民生委員
- · 児童委員、保護司、警察
- ・日本司法支援センター (法テラス)
- ・ボランティア (学習支援、フードバンク、子ども食堂等)

八戸高専においてスクールソーシャルの諸心得

何ができるの?

- (1) 学生の話しを聴く
- (2) 学校内での協力関係をつくること
- (3) 学生本人、家族との信頼関係をつくること
- (4) 課題が抽出された学生の対応



八戸高専において 抽出された学生の対応って

- (1) 相談室長、学年主任及び学級担任へ情報伝達
- (2) 学級担任を通して保護者への連絡
- (3) 学年主任や学級担任の協力を得て相談開始 (面談日程などを決めて個人情報を守り相談開始)
- (4) 相談室長から学級担任へ経過を聴き取る

問題解決に、

組織で対応する

問題解決に、組織で対応する

学校内での教職員の連携が重要

- (1) 児童生徒が抱える問題解決を、 教職員が1人で抱えむ必要はない
- (2) 学校組織で対応する
- (3) チームで対応することで、 問題の見方や対応の選択肢が広がる

問題解決に、組織で対応する

児童生徒が抱える問題を発見する。 シグナルを見逃さない。

- (1) 問題解決には学生の情報が必要
- (2) 各人が気づいた学生のシグナルを 学校内で統合することによって、 児童生徒の抱え込んでいる問題の 発見につなげる



問題解決に、組織で対応する

学生が抱える問題を発見する。 シグナルを見逃さない。

関係機関と連携して、

主体的に問題解決にあたる

- (3) 教職員同士の日常的な気づきの発信や 意思疎通が、支援を必要とする 児童生徒の発見につながる
- (4) 学校内で連携が図られることで、 教職員の、学生のSOSのシグナルに 気づく力量がアップする

問題解決に、組織で対応する

学校内での連携づくり、環境づくり

学校内で教職員同士が連携できる 明確なシステムと環境づくりが期待される

たとえば・・

- ・校内ケース会議の実施
- ・責任者のリーダーシップ
- 教職員の一体的行動



関係機関と連携して、主体的に問題解決にあたる

関係機関との連携

- (1) 子どもが抱える問題解決を、 学校内だけで抱え込む必要はない
- (2) 学校独力では解決困難なケースにも対処しなければならない
- (3) 様々な専門職と連携して児童生徒に対応することは、必然となる



関係機関と連携して、主体的に問題解決にあたる

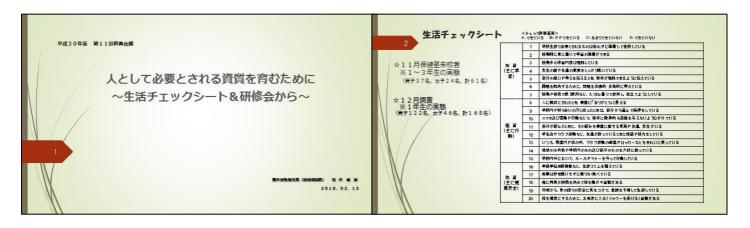
SSWとの一体的行動

- (1) 学校は、SSWとの一体的行動を通じて、 効果的な関係機関との連携を図る
- (2) SSWは役割のひとつとして 問題を包括的にとらえ、 関係機関との連携・調整を図る

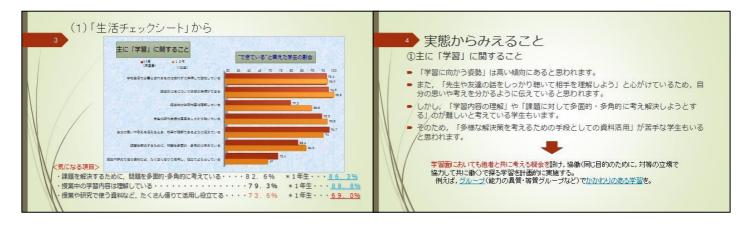


3-2 人として必要とされる資質を育むために ~生活チェックシート&研修会から~

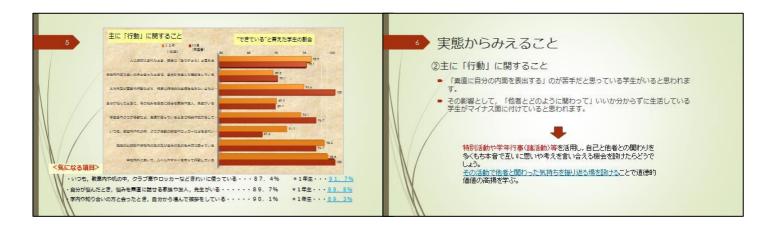
課外活動指導員(総括相談員) 松 井 康 博

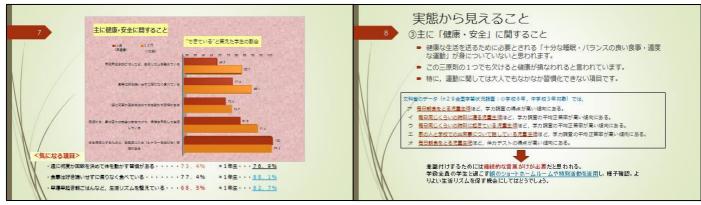


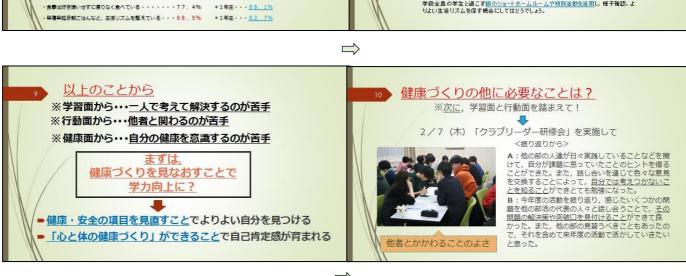








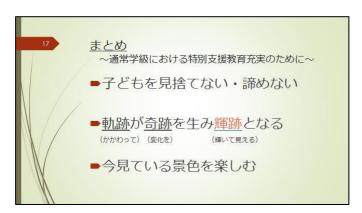












4. 相談室の記録

4-1 年間活動記録

1. 保健室談話スペース開放

毎日 16:00~17:00 (学生休業日は除く)

5. こころと体の健康調査(全学生対象) 6月中旬実施

2. 相談室会議(定例)保健室談話スペース 第1~9回相談室運営委員会開催

6. Q-U 検査

5月中旬~下旬 対象:第1・2・3学年

3. カウンセラー来校日

(火・水・木・金 14:00 (16:00) ~相談室)

第1·3木曜日: 坂本玲子先生

第2·4水曜日:笹 博先生

第3.5 水曜日:中西智子先生

第2・4木曜日:石川善子先生

第1金曜日・第2火曜日: 土屋文彦先生 8.1 学年講演会

4. 一年生対象 SGE (構成的グループエンカウ ンター)

4月24日 (火) 14:25~15:55

L1 (記念ホール)、L3 (第1体育館)

5月1日(火)14:25~15:55

L2 (記念ホール)、L4 (第1体育館)

7. 「話してみよう!1分間」の実施

対象:1 学年生

場所: 懇話室・相談室

月日: ①7月3日(火)~7月13日(金) ②12月3日(月)~12月17日(月)

対象:1 学年生

日時:12月7日(金)14:30~15:30

場所:合併教室

講師:八戸高専 カウンセラー 土屋文彦

題名:自己理解のススメ

ーそのメリットー

4-2 相談室購入書籍・雑誌

☆『心の科学』【日本講談社】

精神医学

・18年7月 200 特別企画:子どものこころと

・18年9月 201 特別企画: "人が怖い"の心

理学

・18 年 11 月 202 特別企画:「助けて」が言え

ない 援助と援助希求

・19年1月 203 特別企画:服薬と処方の心理

・18年5月 199 特別企画:治療のための司法 ・19年3月 204 特別企画:子どもの"困った"

感性

☆『学校教育相談』【ほんの森出版】

・18年4月 特集「学校環境・教室環境何に配 慮しどう整えるか/新年度、子どもからルール

について質問を受けたとき」

・18年5月 特集「子どもに「見ているよ」の

サインを送る/学校にポジィテブなトーンを 作りだす PBIS の可能性を知る」

- ・18年6月 特集「発達障害のある子をしかるときの留意点/授業参観・保護者会で「子供のいいところ」を伝える工夫」
- ・18年7月 特集「スケーリングクエスション が持つ力/SC と子どもをつなぐために教師が できること」
- ・18年8月 特集「目立たないけれどフォロー が必要な子/夏休みじっくり一冊の本を読ん でみる」
- ・18年9月 特集「子どもの「小さな秘密」を どう扱うか/成長につながる「反省のさせ方」 の工夫」
- ・18年10月 特集「子どもの「適切な距離」を考える/電話を通じた保護者とのかかわり」
- ・18年11月 特集「先生の気を引こうとする子/「チームの学校」の実現に向けて(なごや子ども応援委員の取組み)」
- ・18年12月 特集「なんで自分だけ」をどう 扱うか/場面緘黙への理解を深めよう

- ・19年1月 特集「子どもに届ける「ちょっといい話し」の集め方・伝え方/簡単な描画法を使った子どものかかわり方」
 - ・19年1月 増刊号:「言葉かけ」練習帳
 - ・19年2月 特集「年度末失敗したかかわりを 修復する/インクルーシップ教育の流れの中 で支援級や過級を保護者に勧めるとき」
- ・19年3月 特集「異動したときの心構え、異動したとき先生への接し方/子どもの成長を次年度に引き継ぐ」

☆『心理臨床の広場』

【一般社団法人日本心理臨床学会】

- ・18年3月 特集「心理臨床」という選択/対談:ヨシタケシンスケ×西河正行」
- ・18 年 8 月 特集①公認心理師という資格②心 理臨床のいま/対談: 國分功一郎×山崎孝明

編集後記

ここに、平成 30 年度相談室活動実績報告書 をお届けいたします。

平成 30 年4月から保健室に石川久美子看護 師が着任されました。学生たちへの指導、支援 よろしくお願いいたします。相談室の活動は、 学生、教職員ともに面談日を基本的に週 2~3 回として継続してきています。火曜日と金曜日 に土屋文彦カウンセラー (臨床心理士)、水曜 日に笹 博カウンセラー (医師・ささクリニッ ク医院長)、中西智子カウンセラー(臨床心理 士)、木曜日に坂本玲子カウンセラー(産業カ ウンセラー・スクールカウンセラー)、石川善 子カウンセラー (臨床心理士) に担当していた だきました。また 11 月からは、新たにスクー ルソーシャルワーカー (SSW) として正部家千 穂子ワーカーを配置し、週3回(3時間/日) 来校して特に家庭内で問題を抱えた学生等を 支援していただいています。

名誉教授の今野惠喜先生と鳴海哲雄先生、名 營職員の石川正子さんには教職員向け相談室 に週3回、2時間詰めていただき、学生の相談 にも対応してもらいました。

1年生対象の構成的グループエンカウンターは、5月の連休前に各クラス毎に記念ホールと体育館で実施し、担任やクラスメートとの交流が行われました。また、「話してみよう!1分間」は、30年度も7月と12月に1年生を対象に実施しました。アンケート結果からは概ね良好な評価が得られており、今後も本活動を継続していきたいと思います。要支援学生を把握するため、5月にQ-U検査、6月に「こころと体の健康調査」を行いました。また10月から配置された松井康博課外活動総括相談員が中心となり、「生活チェックシート」による調査も冬学期に1~3年生に実施し、関係者が連携しな

がら支援の必要な学生の把握に努め、相談室に つなげるようにしました。

また日本学生支援機構や日本学生相談学会 主催の研修会に、副室長と相談員が参加し、「障 害学生支援実務」などについて、そして国立高 専機構主催の研究集会には、室長、副室長、看 護師の3名が参加し、「いじめ・ハラスメント」、 「発達障害」についてそれぞれ学んできていま す。11月に福島高専で開催された東北地区学生 相談室連絡協議会には、室長と看護師が参加し て学生の支援体制を中心に協議しました。2月 に弘前大学で初めて開催された障害学生支援 に係る県内高等教育機関との連携及び情報交 換会には室長、副室長、看護師が参加して、今 後県内の高等教育機関で連携を深めていくこ とになりました。

最後に、平成 30 年度の相談室活動で、ご指導、ご支援、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

〔矢口〕

令和元年12月

《平成30年度相談室》

矢口 淳一 (室長:環境都市建設デザインコース)齊藤 貴之 (副室長:マテリアル・バイオ工学コース)

戸田山 みどり (相談員:総合科学教育科)

古谷一幸(相談員・機械システムデザインコース)

中 ノ 勇 人(相談員:電気情報工学コース)

今 野 惠 喜(相談員:名誉教授)

鳴 海 哲 雄(相談員:名誉教授)

石 川 正 子(相談員:名誉職員)

深 田 浩 一(総務課長)

宇 野 裕 之(学生課長)

石 川 久 美 子 (インテーカー:看護師)